

「東京都臨海部地域公共交通計画（案）」に関する意見募集の結果の概要

■意見募集の期間と件数

- 募集期間 令和2年12月24日（金曜日）から令和3年1月23日（土曜日）まで
- 意見数総数 22通 51件

■主な意見と回答

意見の概要	回答
BRT のルート、方面が限られて、行きたい場所に行けない。	BRT は地域の交通需要の増加に速やかに対応し地域の発展を支える公共交通機関として導入したものです。 現在事業計画に記載のないルートについては、BRT の運行状況や走行環境への影響を見ながら、今後の検討事項として承ります。
東雲から辰巳方面行のバスを増やしてほしい	ご意見として事業者にお伝えします。
BRT との接続を主目的とするコミュニティバス、フィーダーバスと同一または隣接の乗降場所を設ける取組を実施できないのか。	交通結節点ではBRT、路線バス、コミュニティバスや自転車シェアリング等の端末交通など、多様な公共交通の乗入れを推進するとともに、誰もが利用しやすいようユニバーサルデザインや多言語対応等の施設の整備を目指していくこととしております。
シェアサイクルポートを増設して欲しい（平日日中、ほぼ自転車がなくなっていることが多い。）。	シェアサイクルポートの新設については、今後各区で取組みを進めてまいります。また、運営事業者のホームページによりますと、シェアサイクルについては、運営事業者が在庫状況を管理し、自転車の移動を随時行っておりますが、タイミングによっては空車になっていることもあるとのことでした。
自動運転技術を利用した循環型交通整備（有明地区の北側と南側の行き来がしやすいような循環交通を希望します）	都は、自動運転等の社会実装に向け、交通事故の減少や渋滞の緩和等に資する先端技術の展開のあり方と具体的方策について、現在、有識者等から成る検討会を立ち上げ、検討をしています。道路の整備状況も勘案しながら、先端技術を有効に活用し、人や物がスムーズに移動できるとともに、安心してまち歩きが楽しめるような都市づくりに取り組んでいきます。
湾岸・都心間の交通手段だけだと、より広域に移動しようとしたときに乗り換えがたくさん発生してしまうし、広域から人を集めるという意味でも、鉄道の延伸を進めてほしい。	交通政策審議会答申第198号(平成28年4月)において、事業化に向けて検討などを進めるべきとされた6路線を中心に、国や地方自治体、鉄道事業者などと連携し、需要や採算性の検証、事業スキームの構築に向けた検討などを実施しています。引き続き、関係者との協議、調整を加速し、鉄道ネットワークの充実に向けて取り組んでいきます。
「豊洲スマートシティ」について、戦略政策情報推進本部が公募したモデルプロジェクトにも位置づけられていることを記載したほうが良いのではないのか。	54 ページに追記しました。